

第三者意見▶▶



(一般社団法人)日本コンプライアンス&ガバナンス研究所代表理事/会長、駿河台大学名誉教授・博士(経営学)

水尾 順一 氏

略歴：(株)資生堂を経て駿河台大学に移籍、経済経営学部教授、経済研究所長を歴任、この間東京工業大学大学院特任教授、ロンドン大学客員研究員等を兼任し、2018年3月末退職、現在に至る。(株)ダイセル社外監査役。著書「サステナブル・カンパニー」(株)宣伝会議など多数

▶ 高く評価できる点

企業理念と一体化したCSRの重点課題が可視化されています。

筆者は「理念の経営」、つまり経営理念の具体的な実践の重要性を学会や産業界にこれまで提言してきました。その意味で同社における企業理念とCSRの一体化は、具体的に有効な取り組みといえます。

企業理念を念頭におき、当レポートの「CSRマネジメント」にてCSR活動における八つの重点分野を定め、その重点分野の実践に向けてNIPPO・CSR委員会を設置しています。その下部組織としてそれぞれの関連する領域に合わせて五つの委員会を設けて重点課題の達成に向けて取り組んでおり、同社の企業理念の実現に向けた優れた取り組みが開示されています。

地球温暖化に向けた環境対策が進んでいることが理解されます。

地球温暖化防止が重要課題となっている今日、同社が開発した遮熱性舗装や低燃費舗装(開発中)などの、環境にやさしい舗

装技術への取り組みや対応状況が開示されています。ヒートアイランド現象の予防やCO₂発生量の削減は、省エネルギー・温暖化防止の切り札としてだけでなく安全かつ快適な道路の実現に結びつく意味から、日本国内も含めて世界レベルで積極的な取り組みが期待される技術といえることができます。

▶ 今後に期待すること

人的資本の充実とその広報活動を期待します。

現在、日本社会ではダイバーシティ&インクルージョンや女性活躍推進、働き方改革など人的資本の充実が重要視されています。

同社においては、女性管理職比率が0.05%と低く、今後の重要課題としてあげられます。そのためには女性社員の採用を今以上に積極的に進めることが肝要となります。「人権を大切にする働きやすい会社」であることを、広報活動を通じて社内外にアピールすることもその意味では重要です。

例えば、法務省が進める「Myじんけん宣言」もその一助になります。2023年8月5日時点では450の企業・団体、1,122の個人が「Myじんけん宣言」を公表しています。この宣言により、企業が人権に関する取り組みへの決意を示すことになり、誰もが人権を尊重し合う会社で働くことの喜びを感じていただける可能性が高まり、「楽しく・活き活きと働ける会社」のイメージにもつながります。

今後の同社の取り組みについての宣言を大いに期待し、同社のより一層の発展を心から祈念申し上げます。

▶▶ ご意見をいただいて

水尾先生には、当社の取り組みについて貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。

昨今の気象状況から、地球温暖化防止は喫緊の課題です。企業としての社会的責任を果たすためにもCO₂の排出削減に取り組み、2050年カーボンニュートラル達成を目指してまいります。

また、人材育成については昨年のCSRレポートの特集記事として取り上げましたが、現在は有価証券報告書への「人的資本の情報開示」が求められる状況となっております。今後、開示を求められる「女性管理職比率」「男性の育児休業取得率」等の項目については、まさに「ダイバーシティ&インクルージョン」すなわち、「人材の多様性を認め、受け入れて活かすこと」につながることから、目標を定めステップ・バイ・ステップで取り組んでまいります。

これからも当社は、社会の一員として期待される役割を果たすため、当レポートの情報をさらに充実させ、誰もが「楽しく・活き活きと働ける会社」となるようCSR意識向上に向け取り組んでまいります。



執行役員 管理本部 総務部長
櫻井 佳彦